

# 山田みやこの活動報告

令和4年6月11日(日)

## 2022年連続講座「政治を揺り動かす」 オンラインセミナー「産科暴力と女性の身体権」

主催 市川房枝記念会 女性と政治センター

講師 早乙女 智子氏(公益財団法人 ルイパストゥール医学研究センター 主席研究員)

〈日本は女性差別撤廃条約違反だらけ〉

- 1) 婚姻可能年齢  
女性16歳、男性18歳⇒18歳に統一
- 2) 再婚禁止期間  
女性のみ300日⇒100日
- 3) 同姓の強要  
98%が男性側の姓に改姓
- 4) 医大入試女子差別問題
- 5) 墮胎罪  
国際セーフアボーションデー⇒墮胎罪撤廃

医療の名の下に女性への人権侵害が隠されている

社会的性差 = ジェンダーギャップ

本質的に異なるのは女性が妊娠し得る側だということ

〈産婦人科診療から見る妊娠・出産・流産・不妊〉

- 1) 不妊カップル 約10%
- 2) 妊娠の15%は流産に終わる
- 3) 不妊原因は男女半々、20%は原因不明
- 4) 妊娠のタイミングは女性のライフプランに重要
- 5) 不妊・流産・子宮外妊娠・難産など思いがけないことが起こりうる

〈産科暴力とは〉

- 1) 批判的・道徳的・無礼な言葉による暴力
- 2) 不必要な帝王切開など身体的暴力
- 3) 脅迫・怒鳴り声・敵対的な発言による心理的暴力
- 4) 頻回の内診など性的暴力
- 5) スティグマ・偏見など社会的差別
- 6) 育児放棄・ケア推進拒否などケア放置
- 7) 不適切な処置

自然な自分らしいお産を希望するのは当たり前のことでわがままではない。  
母子分離、孤独出産の被害は母子の将来に影響する。

〈私の身体の守り方〉

- ・どんな避妊がしたいか選択する
- ・どんな出産がしたい準備する



社会が出産する女性を全面的に支援する、子どもを産みやすい日本であるべき。  
自分の身体のことは自分が決め、生き方は選べる。